

## 博士論文要旨

氏名	大竹恵子
学位の種類	博士(人間科学)
学位授与の条件	神戸女学院大学学位規定第5条2項の規定による
学位論文題目	Adopting the Stage Model for Smoking Acquisition in Japanese Adolescents (日本の青少年の喫煙獲得行動におけるステージモデルの適用)

## 論文の要旨

喫煙者が禁煙するという行動変容について、いくつかのステージ(段階)があることが指摘されている。健康に関連した行動の変化をステージモデルから考えることは、実際の治療や介入場面において、非常に効果的であることが明らかにされている。しかしながら、これまでの研究では、ステージモデルの実践的あるいは介入研究が多く、将来の健康を目指した予防的な試みや働きかけは行われていない。わが国においても近年、将来の健康を促進するための予防的研究や介入は注目されており、特に、青少年の喫煙獲得行動を明らかにすることは、社会的にも重要な意味を持つと考えられる。そこで、本研究では、日本の青少年の喫煙獲得行動について、ステージモデルを適用できることを提案し、検証した。対象者は、公立学校に在籍する 556 名の高校生と 1002 名の中学生であった。調査方法は、自己記入法による無記名式の質問紙であり、回答の秘密と正確さを厳守するため 1 人ずつ個別に封をして回収した。その結果、日本の青少年における喫煙獲得行動は、喫煙無関心期、喫煙関心期、喫煙準備期、喫煙実行期という 4 つのステージから理解できることが明らかにされた。また、喫煙ステージに関連する個人要因として、喫煙に関する自己効力感、メリット・デメリット、誘惑されやすさを取り上げ、これらが喫煙無関心期から喫煙実行期に移行するにつれて変化することを明らかにした。喫煙へのステージが進行するにつれて喫煙に対する自己効力感は低下し、逆に誘惑されやすさが高まることが示された。また、喫煙に対するメリットは、喫煙無関心期から喫煙実行期に進むにしたがって増加し、逆にデメリットは低下しており、この両者が交差する時期である喫煙無関心期から喫煙関心期が喫煙防止教育において重要である可能性が示唆された。これらの結果について、国際的な比較や理論的な議論を行い、喫煙獲得行動をステージから考えることの意義や禁煙への行動変容からスタートしているステージ理論との共通点や相違点をあげ、最終的に喫煙獲得行動をステージ理論から考えることによって、効果的な喫煙防止教育が実現可能であることを考察した。最後に、ステージ理論に基づいた予防的介入活動として、われわれが実際に行っている追跡研究の効果を紹介し、ステージモデルと健康に関連する行動変容、予防的介入研究の可能性について検討した。